

2024年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

| | |
|---|---|
| 授業科目名：金融機関論特論 | |
| 担当教員名：國方 明 | |
| <p>授業科目概要：</p> <p>本科目の目的は、次の2つである：(a)金融機関に関わる経済理論を修得する、(b)金融機関に関する実証分析の手法を修得する。それぞれ補足説明すると次の通りである。</p> <p>(a) ミクロ経済学の理論は、「金融機関が、市場の失敗(情報の非対称性、契約の不完備性など)を軽減する役割を果たす」と説明する。まず、この役割に関する経済理論を学ぶ。次に、規模の経済性、範囲の経済性、効率性などの概念を使って、金融機関がこの役割を果せる根拠を学ぶ。</p> <p>(b) 規模の経済性、範囲の経済性、効率性を、金融機関の費用関数などの推定を通じて分析する。この分析手法を学ぶ。</p> <p>なお金融業は大きく銀行業、証券業、保険業などに分かれる。本科目では銀行業(預金取扱金融機関)を中心に話を進める予定である。</p> <p>最後に、本科目では教科書を使用せず、下記参考書に基づいたハンドアウトを配布する。</p> | |
| <p>履修上の留意事項：</p> <p>あらかじめ金融経済学特論、ミクロ経済学特論I、ミクロ経済学特論IIおよび計量経済学特論の単位を取得していることを強く望む。もし、これら科目の単位を取得していなければ、各科目のシラバスで指定されている教科書などを使って自習すること。</p> <p>表計算ソフトと計量パッケージの基本的な使用方法を知っていると、(b)を円滑に理解できるだろう。</p> <p>最後に第8回～第12回で、細かく、余り体系だっておらず、誤解を恐れずに言えば「泥臭い」作業を紹介する。このような作業を厭わない学生の受講を望む。</p> | |
| 参考書 | |
| <p>参考書1</p> <p>書名：『金融』</p> <p>著者／編者：内田浩史 著</p> <p>出版社：有斐閣</p> <p>出版年：2016年</p> <p>新品購入可能、本学図書館に所蔵済み。</p> <p>金融取引や金融機関を、ミクロ経済学の理論(特に不完全情報の経済学や不完備契約の理論)を応用して説明している。学部レベルのテキストだが、経済学を使って金融を理解するための手がかりとして大学院生にも勧められる。</p> | <p>参考書2</p> <p>書名：『金融の仕組みと働き』</p> <p>著者／編者：岡村秀夫 他 著</p> <p>出版社：有斐閣</p> <p>出版年：2017年</p> <p>新品購入可能、本学図書館に所蔵済み。</p> <p>参考書1と比べて、金融機関の経営に関する記述が充実している。一方、著者が5人と多く、金融や金融機関を分析する際の視点が著者ごとにやや異なる。このため、参考書1よりも理解しにくく感じる人がいるかもしれない。</p> |
| <p>評価方法及び判定基準：</p> <p>次の(ア)および(イ)を総合して、100点満点で各履修者を評価する。試験は実施しない。</p> <p>(ア) 授業における活動や貢献</p> <p>(イ) 課題1回</p> <p>上記(ア)および(イ)の内容及び配点を、第1回授業内で伝える。</p> <p>A評価：80点以上、B評価：70点～79点、C評価：60点～69点、F評価：59点以下</p> | |

授業目標及び進め方：

目標： 概要で示した通り。

進め方： 原則として、講義形式で授業を進める。

また学期中に一度、課題を実施する。課題内容は次の予定である。國方が、金融機関にかかわる学術論文またはレポートを数本配布する。各履修者は、その学術論文等の中から1本を選び、その1本を要約する。詳細を授業内で伝える。

◆ 授業進行計画（* 受講生の関心分野や新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、計画を変更する可能性がある。）

| | |
|-------------------|---|
| 第1回 ～ 第3回 | <p>テーマ：金融機関の概観</p> <p>内 容：金融機関の歴史や財務諸表の特徴を学ぶ。</p> <p>教科書／参考書：参考書1の第8章と第10章。</p> |
| 第4回 ～ 第7回 | <p>テーマ：銀行業にかかわる経済理論</p> <p>内 容：銀行の行動を分析する経済理論と、銀行が提供する貸出や預金にかかわる経済理論を学ぶ。</p> <p>教科書／参考書：参考書1の第3章～第8章。参考書2の第2章と第7章</p> |
| 第8回 | <p>テーマ：銀行業を対象とする実証分析の手法(1) 生産物と生産要素</p> <p>内 容：第7回までの授業で、銀行の果たす役割、言い換えれば銀行が提供するサービスを説明した。そして実証分析に当たって、このサービス生産・提供度合を各銀行の財務データなどで測らなければならない。ただしサービスの生産・提供度合をどの財務データで測るかについて、いくつかの学説があってコンセンサスが得られていない。第8回では代表的な学説を2つ学ぶ。</p> <p>教科書／参考書：該当無し。</p> |
| 第9回 ～ 第12回 | <p>テーマ：銀行業を対象とする実証分析の手法(2) 生産関数と費用関数など</p> <p>内 容：ミクロ経済学で学んだ生産関数や費用関数を応用して、規模の経済性と範囲の経済性を分析する方法を学ぶ。また計量経済学や線形計画法を用いて、金融機関の効率性を分析する手法も学ぶ。</p> <p>教科書／参考書：該当無し。</p> |
| 第13回 ～ 第15回 | <p>テーマ：プルーデンス政策</p> <p>内 容：金融システムや金融システムを構成する金融機関に対する政策を学ぶ。</p> <p>教科書／参考書：参考書1の第13章第14章、参考書2の第12章</p> |